

薬剤経済の検討
博士課程3年 林 行和

【概要】

承認申請をした薬剤の市場に出る際の薬剤経済的な位置付けを検討する研究を計画している。比較する薬剤の情報が、一方は治験で得られたデータであるのに対し、もう一方は、実臨床におけるデータであることから、比較妥当性の検討が重要となる。比較する薬剤の治療サイクルの期間が異なることから、費用を比較するにあたって、費用を算出する期間と比較するための標準化が課題点の一つである。また、費用算出に用いる情報（例えば副作用に対する医薬品の投与等）の発生タイミングに傾向があることも考えられるため、発生パターンを考慮して費用を算出する期間を検討する必要がある。一施設から得られた治験データおよび実臨床データから検討したその傾向の一般化可能性を RWD で検証し、一般化した薬剤経済の評価を比較する計画を紹介する。

【参考文献】

PMDA. 医療情報のデータベース等を用いた医薬品の安全性評価における薬剤疫学研究の実施に関するガイドライン. 2014.

佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子. これからの薬剤疫学 リアルワールドデータからエビデンスを創る. 朝倉書店. 2021

赤沢学. 薬を扱うなら知っておきたい! 薬剤経済はじめの一步. 羊土社. 2020.

坂巻弘之. やさしく学ぶ薬剤経済学. じほう. 2003.

五十嵐中. 「薬剤経済」わかりません!!. 東京図書. 2014.